

城から探る新城の歴史

この特集は
市民編集委員が
企画・取材しました

市内に100以上の城跡があることをご存じですか？新城にはなぜこのようにたくさん城ができたのでしょうか。また、「新城」という市の名前の由来にも関係するのでしょうか。設楽原歴史資料館の湯浅学芸員に聞きました。



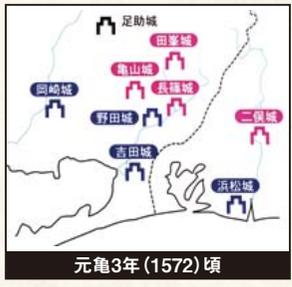
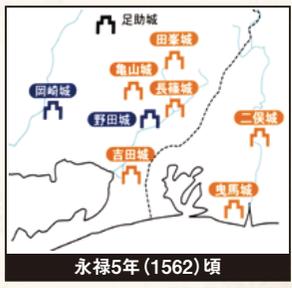
城というと天守閣を想像する方が多いと思いますが、天守閣がない城も多くあります。市内には天守閣がある城は1つもありませんでした。そもそも城のもつ役割は、外敵からの防衛、権力や富の象徴などさまざまあります。古くは古墳時代からあったと言われ、自分たちを守るために柵や堀で周りを囲むことが始まりでした。市内では石座神社（大

宮）周辺に集落の跡がありました。が、ここにも城のような機能があったのではないかと考えられています。



では、なぜ100以上の城が新城にあったのでしょうか。これは新

勢力変遷図



今川方
武田方
徳川方

城が昔から豊かで住みやすい地域だったからだと考えられています。新城は気候が安定しており、作物もよく実り、とても過ごしやすい地域です。

また、奥三河は三河、遠江、信濃の3つの国の境にあります。西三河には松平氏、遠江の今川氏、信濃の武田氏とそれぞれ大きな勢力に囲まれていました。豊かな新城を支配しようとした勢力が争っていたため、自らを守ろうと多くの城があっ

たのです。

長篠城（長篠）は今川家の家臣が築き、その後徳川方の城になり、今度には武田方に奪われ、最後は徳川方の城となり、長篠・設楽原の戦いを迎えました。このように、いくつかの勢力が入り替わり立ち替わりしてることが分かります。

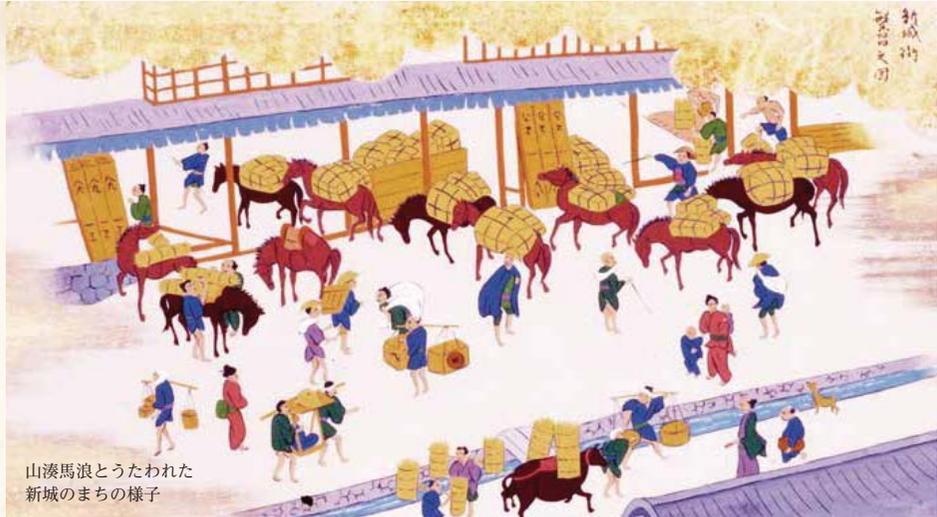
もちろん100以上の城は同時に存在したのではなく、新しい城ができてはなくなり、を繰り返してこれほどまでの数になりました。



各城が機能していた時期

	室町時代		安土桃山時代		江戸時代
	1500	1525	1550	1575	1600
宇利城					
長篠城					
柿本城					
龜山城					
古宮城					
塞之神城					
文珠山城					
野田城					
新城城					

長篠・設楽原の戦い



山湊馬浪とうたわれた
新城のまちの様子

人が 行き交う街



昔の交通手段は、歩く、馬、舟。これらの手段で交通する場合、新城市は名古屋方面、飯田方面、浜松方面、豊橋方面とあちこちへ比較的容易に行ける場所でした。

また、当時から人は病気が火事にならないようにお参りをする習慣がありました。無病のお参りは鳳来寺へ、防火のお参りは遠江国の秋葉神社へ行っていたそうです。そのため、秋葉神社でお参りした人が秋葉栗山や大野で宿泊し、鳳来寺に行く秋葉街道は多くの人が往来しました。

人の流れが多くなると、全国各地の情報も新城に伝わるようになりました。特に新城は豊川から舟で運ばれてきた荷物を馬に乗せて運ぶ、中継貿易の重要な町となりました。商業などで資産を

増やして、三河一の大金持ちといわれるような商家もあつたようです。まさに山の湊として発展をしました。



徳川家康が まちづくり



これらは江戸時代の話ですが、それ以前も交通の要衝でした。これも武將たちが新城を魅力的に思った理由の1つだと考えられます。

この郷ヶ原に新たな城を築くことを決めたのは徳川家康です。それまでの城は軍事力の拠点としての役割を担っていましたが、家康は政治や経済の拠点として新城を築いたと考えられています。

どのように道を作るか(交通)、食料生産のための地域をどう置くか(農業地)、物の売り買いを盛んにする町の配置はどうするか(商業地)、武家屋敷をどこに置かなど、かなり実践的な試みがなされたようです。

徳川家康はこの15年後、豊臣秀吉の小田原城攻めの後に、海が入り組んだ江戸を選んで江戸城、江戸の町をつくることとなります。新城でのまちづくりの経験があつたからこそ、豊臣秀吉に勧められた小田原ではなく、江戸で全く新しい街づくりに挑んだのではないかと考えることもできます。

良好な関係の 城主と町衆



江戸時代、旧新城市内では百姓一揆は一度もありませんでした。これは土地の利もありますが、新城城の殿さまは有能で優しく教養のある文化人だったからと言われています。城主は農民に無理な年貢は強要せず、不作の時は商人から御用金を徴収していました。城主と町衆は距離感も近く信頼関係も強かったことがうかがえます。

この頃に始まった町衆による「能」は現在も引き継がれ行われています。富永神社にある能舞台は江戸城の能舞台を模倣したと伝えられています。幕府のお咎めを恐れ、橋掛かりを少し短くして、幕府に遠慮したそうです。それでも、新城の能舞台は近国無比と言われています。これだけの江戸城と同程度の能舞台を造るだけの経済力が新城にあったのです。これらのことから、新城はとても裕福な街だったことが分かります。

新城の 名前の由来

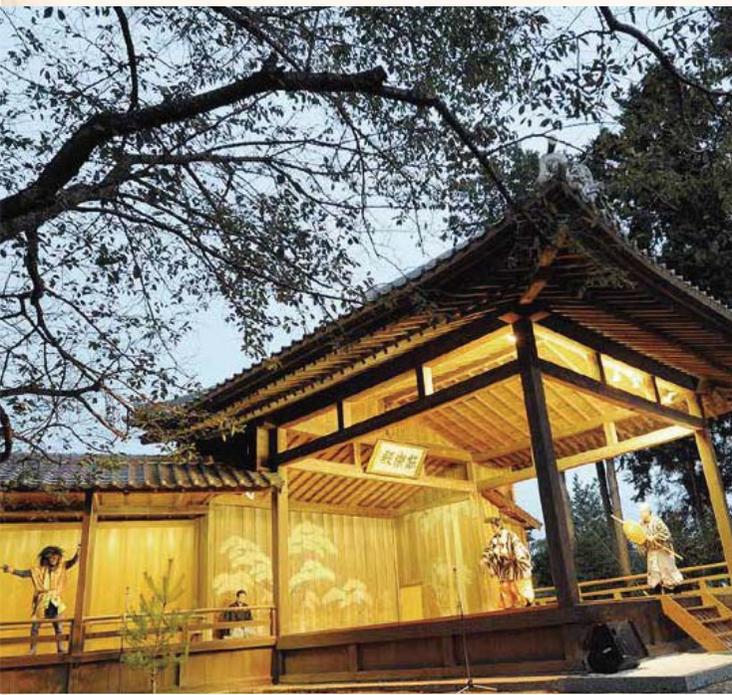


新城の名前の由来は江戸時代よりも前になります。

大谷城(土平井)の城主、菅沼定

継は天文元年に居城を今の新城橋のたもとに移動しました。大谷城に対して新たに築いた城は「新城(しんじょう)」と呼ばれました。

した。今では「新城(しんじょう)」は「新城(しんしろ)」と区別するために「新城古城(しんしろこじょう)」と呼んでいます。



富永神社の能楽堂(市指定文化財 昭和33年4月1日指定)

編集後記

湯浅さんの話を聞いて、自分が知らなかった新城市が発展してきた歴史を知ることができました。人口減少が止まらない今、新城市の発展の歴史をもう一度見直し、今必要なものは何か、今後どのようなものが、必要なのかなど、未来に向かってビジョンを創るために大勢の人の知恵を取り入れながら進めていく必要を感じました。